

はじめに

近年の小学校教員大量採用の流れの中、経験年数の少ない教師に向けて教育雑誌中に掲載の東京都副知事 猪瀬直樹氏の言葉。「普通20代は、上司や先輩に命令されて動くことが多い。でも、教師は仕事を始めてすぐに自分で考えて授業をすることができる。素晴らしい仕事だと思う。自由で独創的なことができる。」学級担任・教科担当として、45分の授業を任されて、児童を指導する。責任は重く、スキルはまだ十分でないかもしれないが、自分で考えて物事を進めることができるということは、素晴らしい。

また、一方で猪瀬氏は「教師になる人間に覚えていてほしいのは、知識を仕入れて授業をする、つまり、プレゼンテーションする以上は、仕入れコストをかけなければいけない。上司に言われた仕事だけをする新入社員と違うのだから、努力をすればするほど自信が持てるという良い循環をつくる必要がある。そうすれば、教師ほどやりがいのある仕事はない。」とも言っていた。このような言葉をしっかり受け止めながら自分が担当している役割、仕事を十分に考えながら進めていきたい。

#### 1 今年度の実践発表について

今年度の香小研国語部会のテーマ「単元を貫く言語活動を充実させる学習の展開」のもと、本日の実践でも、教材の特徴を生かす、子どもの実態に応じた単元構成の工夫が見られた。

##### (1) 研修Ⅰ 高松支部

身の回りの題材を使って、表現の工夫の違いに気付く実践。子ども自身が目的と工夫の関係を実感することができた。子どもの気付き・考え方を積み重ねていく学習ができていた。

##### (2) 三豊・観音寺支部

付きたい力に重点。今回は、文を書くことに重点。それ以外はおいておく。例えば、資料の中には絵や写真を入れ考えなくてよいところは考えないようにする。指導者より、教材研究について話があった。教材の仕組みをしっかり考えることで、子どもが学ぶ道筋が見えてくる。この教材であれば、当然こういう意識を持つということが見えてくる。

##### (3) 研修Ⅱ 高松支部

子どもの意識・課題がつながっていく単元構成がなされていた。どの教科でも学び方が生かせる。学んだ表現の良さに気付いていく。今回は、箇条書きと文章で書く。どういった表現が良いのか、その表現の良さは何なのかが児童は分かったと思う。

##### (4) 仲・善支部

書くことと読むことを効果的に関連させた取り組み。これにより、子どもにとって必然性のある学習が進められていた。

全体を通し、学んだことを活用することで、子どもの言葉が、生活が変わっていく。そして、次への意欲が持てる。広がっていく研究テーマであると感じた。

#### 2 今後留意すべきこと

研究部資料 P3 単元を貫く言語活動を設定する際の大まかな手順として、1～4が示されている。子どもの力を付けるという視点から考えると、1単位時間だけでなく、1単位時間ごとに学習を組み合わせ、積み重ねていく。単元として設定する言語活動、1年間の指

導計画を設定して付けていく力、また、小学校であれば、6年間を見通して付けていく力、全体の流れを改めて意識していく必要がある。

- ・初等教育資料の7月号や水戸部調査官の言葉などを参照
- ・「小学校学習指導要領の総則 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項 1—(1)各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること 1—(4) 児童の実態等を考慮し、指導の効果を高めるため、合科的・関連的な指導を進めること」
- ・「小学校指導要領解説国語編 第4章 第1節 指導計画作成上の配慮事項 弾力的な指導に関する事項」児童の実態を踏まえ、学習を積み重ねていく系統的な指導をする。小学校国語科の目標は2年間単位で示されている。1年間でも同じ指導事項を何度か指導するが、2年間でそれを積み重ねていく。目標・内容の系統性を意識していく。
- ・「(同上) 関連的な指導と学校図書館の活用に関する事項」各領域等の内容を生かした関連指導が挙げられている。話す・聞く、書く、読む、伝統的な言語文化に示しているそれぞれの内容を相互に密接に関連させることで指導の効果を高めること。
- ・「(同上) 書くことに関する事項」の中には、学年の系統を踏まえた繰り返し指導という視点「(同上) 読むことに関する事項」の中には、各教科との関連指導という視点も示されている。

総則や指導計画の作成と取り扱いを見ていくと、1単位時間の指導は重要であるか、その1単位時間の指導が単元の中でどういった役割があるのか、1年間の指導の中でどういう位置づけになっているのかを改めて意識し、たとえば、夏休みまでの指導を振り返り、9月からどのように変えていくのか、積み重ねていくのかを意識することが大事。

教材が多いことややることが複雑で時間のやりくりが難しくなっている。昨年の全国指導主事研修会で話された中学校国語の富山調査官の話「中学校指導要領の指導事項の中で、中学校で初めて出てくることはあまりない。つまり、小学校のどこかで指導している。ところが、多くの中学校の教員は、中学生になって初めて指導するかのように実態を十分踏まえないで指導し、結果として時間が足りなくなってしまう。」

小学校でも、前回と同じ指導事項を、積み重ねや系統ということを十分踏まえないで、また初めから指導することから時間が不足している。1単位時間1つの単元の中で指導事項が3つあるとしても重点を置く事項、その場では重点を置かない事項と年間計画の中で明らかにしていく必要がある。

今回の実践発表を通して、子どもの課題意識が単元を通してつながっていくことが非常に大事だと感じた。指導者側として、この教材を使ってこの指導事項を指導するというのは大事だが、実際に学んでいくのは子どもだから、子どもがどういう意識で学んでいくのか、どういう学びのルートを通っているのかを意識することが重要。その中で主体的な学び・自発的な学びという姿勢を育てていくことが大事。自分がこの教材でどういったことをしようかまず考え、次に授業に入ってしまうのではなく、子どもはどういう意識で学んでいくんだとか、これまでどんな学びをしてきたんだとか、ここではどんな学びをするだろうかということ意識する。そこに重点を置いてやっていくことが大事。